

会 議 録

会 議 名	平成 29 年度東浦町パートナーシップ推進事業補助金審査会	
開 催 日 時	平成 29 年 7 月 15 日（日） 午前 10 時から午前 11 時 30 分まで	
開 催 場 所	勤労福祉会館 会議室 2	
出 席 者	委員	吉村輝彦委員長、久米弘副委員長、牧野清光委員、戸張里美委員、早川信之委員
	事務局	原田課長、筒香係長、柿野主事
	申込団体	来夢の森、ひがしうら映画プロジェクト
議 題	<p>1 平成 29 年度東浦町パートナーシップ推進事業（公開プレゼンテーション審査）</p> <p>（1）NPO 法人初動支援型</p> <p>（2）テーマ特定型</p> <p>2 審査結果</p> <p>3 講評、総括</p>	
非公開の理由		
傍聴者の数	7 名	
審 議 内 容 （ 概 要 ）	<p>議題</p> <p>1 平成 29 年度東浦町パートナーシップ推進事業（公開プレゼンテーション審査）</p> <p>平成 29 年度東浦町パートナーシップ推進事業申込団体からプレゼンテーションにて事業の説明を行った後、委員から質疑、これに対する応答が団体よりあった。</p> <p>なお、各団体の質疑応答は下記のとおりである。</p> <p>（1）NPO 法人初動支援型（申込団体：来夢の森）</p> <p>（委員）</p> <p>対象経費として「フライングディスクセット」や「ボッチャボールセット」とあるが、フライングディスクやボッチャとはどういった競技なのか。</p> <p>（団体）</p> <p>フライングディスクを輪の中に 10 枚投げて、何枚入るかを競う競技である。この競技は、2 人 1 組で練習する必要がある。教室を開くとなると、それだけの人数分のディスクがないと練習ができない。そのためディスクを何枚か申請している。</p> <p>ボッチャと言うのは、まず白いボールを 2 チームどちらかで投げ、赤チームと青チームに分かれる。赤チームと青チームが一球ず</p>	

	<p>つ交互に投げ、白いボールにいかに近づけるかという競技である。このボールのセットを購入したいと思っている。</p> <p>(委員)</p> <p>スタッフから会費を取らずに行うのか。</p> <p>(団体)</p> <p>スタッフからの会費としては、会場使用料や行事保険への加入料、熱中症対策としてのドリンク代など必要経費にあてる参加費をいただく予定である。</p> <p>(委員)</p> <p>発表の中で、いくつか行いたいことを言われていたが一番行いたいことは何か。</p> <p>(団体)</p> <p>障がい者スポーツ。障がい者の方の社会参加、リハビリ、機能低下予防を一番の目的として行いたい。</p> <p>(委員)</p> <p>会員は何人くらいいて、常時何人くらいの方が活動に参加しているのか。</p> <p>(団体)</p> <p>会員数は15人程度いる。このうち常に活動している人は、現在10名ほどである。</p> <p>(委員)</p> <p>活動ごとに参加費で全ての活動が完結できるのか。他に収入源があるのか。</p> <p>(団体)</p> <p>定期的に講座を開催するので、その講座の参加費をいただく。毎回の講座に参加される方は、会員になっていただき、入会金と会員費をいただく予定である。その時々に参加される方に対しては、そのときの参加費だけをいただく予定である。</p> <p>(委員)</p> <p>活動の趣旨は理解したつもりであるが、2点確認したいことがある。</p> <p>活動予算書の収入に対する支出だけを見ると、残る部分(繰越金)がかなりある。この観点から見ると、助成金をもらわずとも活動できるように思える。また、スポーツによる青少年の育成事業収益(空手教室の収益)について、収入に対して支出がかなり抑えられている。もらうお金に対して支出していないイメージを与えかねないが、どのように考えているのか。</p> <p>また、2点目としてこちらは要望となるが、今回の事業は、行政</p>
--	--

との協働推進事業であるので、スタッフジャージなども、毎回参加しているスタッフが使うものとして私にするのではなく公的なものとして、購入物品を分けて使用してほしい。

(団体)

活動予算書の金額は確かに大きく出ているが、ここまで到達したいという金額であって、実際に活動予算書に記載のある金額が収益として入るかは、正直を申し上げると分からない。教室を定期的に行って、最終的にそこまでの収益が得られるのではないかと、というところから出している金額である。逆に申し上げると、道具の経費を補助いただき、補助金で用意した道具を用いることで、その収益が得られるのではないかと考えている。

また青少年の育成事業収益について、現在行っている教室は、他の講師の分教室として行っているが、今後は分教室ではなく、支部として独立して活動する予定である。1つ合併する予定の教室があり、そこからの収益見込みも記載している。もしかすると、その合併がなくなり、収益がないかもしれないという状態である。

(2) テーマ特定型 (申込団体：ひがしうら映画プロジェクト)

(委員)

ショートムービー制作のための準備として、今年度は、Facebook または YouTube で動画を集約するページを立ち上げるということだが、ワンクッションおく意味はなにか。

また予算についてだが、講師料は見積をとっての額なのか。

(団体)

現在、人が足りていない。ワンクッション置くことで人を集めたいと思っている。また活動について情報を発信することで、活動に協力していただけるような、例えば資金を得られたりといったことを期待している。

また見積の件については、ドローン講座を考えているため、講師を増員したいと思い、予算計上した。

(委員)

昨年度パートナーシップ推進事業として「東浦アートプロジェクト」が行ったワークショップと今年度パートナーシップ推進事業に申込んだ「ひがしうら映画プロジェクト」のワークショップについて、どのような違いがあるのか。

(団体)

最初の方の講座は、確かに昨年度のワークショップと被るところがあるが、今年度は最終的に動画をつくることが目標となる。した

がって、途中からワークショップではなく動画づくり講座となる点が昨年度と異なる。

(委員)

最終的に動画は出来上がるのか。

(団体)

出来上がるようにするのが団体として我々が行っていくべきことだと思っている。

(委員)

先程、人が足りていないと説明をいただいたが、来年度のショートムービーの制作でも人が足りないということか。もし、このまま人が足りなかった場合は、ショートムービーの制作が難しくなるということなのか。

(団体)

ある一定の人数がいれば制作はできると思う。しかし制作するために人を集める努力をするのではなく、人が集まった上で制作していきたい。制作できないということではなく、できるために、これからどうしていくか集まったメンバーで考えていきたい。

(委員)

ショートムービーの制作は、パートナーシップの補助制度の範囲内で出来る規模のものなのか。

(団体)

パートナーシップ推進事業補助金だけで終わるものではない。住民のつながりや交流を目的としているので、たくさんの方にどういったカタチでもよいので関わっていただきたいと思っている。

パートナーシップ推進事業で助成を受ける金額で制作するならば、その金額の範囲内で制作するし、たくさんの方が関わってくれたら、関わってくれた分だけのものを制作する。お金よりも「思い」で紡いでいきたい。

(委員)

土曜日の午前、講座全8回分の参加は難しいと思うのが一般的だ。8回全て参加する人を優先するという条件は、ハードルが高いのではないか。

また次年度以降についての話をしていたが、自立に向けた仕掛けや仕組みづくりをしていかないと、活動自体が長続きしないのではないか。講座の受講料を無料とすることで、(参加に対する)間口を低くしているようだが、他方で、多少お金をとって良いのではないかと思う。このことについて、どのように考えているのか。

(団体)

1回や2回の参加としてもよいのではないかという意見は団体の中でもある。しかし、最終的な目標を考えるとそれ(1回や2回の参加でもよいということ)を公開するべきではないのではないかと、とも思う。

自立に向けた資金について、団体としての基盤が構築されていない団体には、人はお金を出せないと思う。まずは、活動資金をつけてもらえるような基盤がしっかりした活動を行いたい。

(委員)

今年度は、それでもよいと思うが、次年度以降の資金繰りにしても、今から考えた方がよいのではないかと思う。

2 審査結果

事業名	団体名	得点(点)	交付額(円)
NPO 法人初動支援型	来夢の森	71.2	130,564
ショートムービー制作	ひがしうら映画プロジェクト	69.6	291,600

3 講評、総括

委員5名より下記のとおり講評があった。

(委員)

NPO 法人初動支援型に申込んだ来夢の森については、今後の具体的な展開への疑問が残る。コミュニティを含めた地縁組織等に対して、もっと理解や協力を求めて、広がりをもった活動をしてほしい。また、ボッチャやフライングディスクなど、障がい者スポーツをよく知らない人は多い。PRが必要だと思う。

ショートムービー制作の事業については、成果が見えにくく、見通しが立ちにくいいため、もっと(今後の見通しを)詰める必要があると思う。

(委員)

来夢の森についてだが、NPO 法人は設立して終わりではない。(質疑応答の中で)活動予算書についての質問が多く出たが、次の活動を行うために収益を出していく必要もある。また、株式会社とNPO 法人の違いは、出た収益を活動へ回すか回さないかという点だけで

ある。収益が出たら、その分の活動をどんどんして行ってほしい。

ひがしうら映画プロジェクトの事業について、若い人が少なくなる時代に、若い人が活発に参加できる活動をしていくことには、夢があるように思う。今後を期待する。

(委員)

来夢の森について、目の付け所がとてもよかったと思う。立ち上げるところまでは、上手くできたとしても、理想と現実の違いもある。これからは、つくっていくことの方が大事であると思う。がんばってほしい。

ひがしうら映画プロジェクトについては、どうしても昨年度と今年度の事業の違いが分からないという印象が強かった。一年後の報告会では、1本になったムービーを見せていただけるとよいと思う。

(委員)

来夢の森について、障がい者支援の分野で、さらに活動を充実させるためにボランティア団体からNPO法人化したということ(団体のミッション)がすばらしいと思った。障がい者の方を含め一人ひとりが活躍できるようなまちを目指して頑張っていたきたい。

ひがしうら映画プロジェクトの事業について、町は町としての情報発信があり、住民には住民目線での情報発信がある。それぞれがそれぞれの強みを生かしながら、事業を行っていけばよいのではないかと思う。

(委員)

今回の審査事業は、「多様な人たちがどのように関わっていけるのか。」という点がキーワードであったと思う。

ポッチャは、障がい者スポーツとして捉えられがちだが、実は障がい者を含めて色々な人たちが関わるができるという点がポイントだと思う。ポッチャを通して、多くの人をいかに巻き込むことができるのかを意識して事業を行っていくことが重要だ。

色々な人が気楽に参加できるきっかけづくりと上手くつなげることができれば、最終的に来夢の森の活動を知ってもらい、NPO法人としての活動を発展させていくことにつながると思う。自分たちの活動をいかにPRするかということも大事だが、(この分野での活動自体に)多くの人に関心を持ってもらえるような、また「参加する」というハードルが下がるような工夫が必要だと思う。

同様に、ひがしうら映画プロジェクトの事業についても、多くの人に関わってもらうことが大事であると思う。

「いかに人を集めるか」ではなく、「いかに人が来たくなるか」

	<p>というところがとても大事である。目的が明確であるからこそ、逆にハードルが高くなり、(参加してみたいという) 思いを持つ人が絞られてくる。映画をつくるということも大事だが、「どれだけ人が来なくなるか」にチャレンジしてもらいたい。</p> <p>若い人たちは色々なことに興味を持っていると思っている。若い人たちにどう届くのか、アウトリーチできるのか、「工夫」が今後の鍵になると思う。</p> <p>また、補助金だけではなく、自分たちがどれだけ思いを持って、人の共感を育てていけるのか、ぜひ考えてほしい。極端なことを言うとクラウドファンディング型で支援金を集めた時にどれだけ共感を得られるかを意識して事業を行ってほしい。</p> <p>行政として、この事業は、ただ単に補助金を出すためのものではなく、人育てあるいは担い手育てのために行っている部分もあると思う。人を育てるということを意識してほしい。</p> <p>例え(事業が) 成功しなくても、チャレンジしたことを掘り下げれば、次にどうすればよいのか課題も見えてくる。報告会のときには、事業が成功した、成功しなかったではなく、どういったチャレンジをしたのかを聞かせていただきたい。</p>
--	--